

目次

- I 大塚図書館 - 社会人大学院生の強い味方
- 4 附属図書館ボランティア5周年記念式・講演会開催
- 5 Ask Us としょかんミニガイド
- 7 附属図書館開館日カレンダー
- 7 私の一冊
- 9 本学教官寄贈著書紹介
- 9 とびっくす
- 10 掲示板



大塚図書館 社会人大学院生の強い味方

石隈 利紀

私と図書館

図書館は学生や研究者の生活にとって、錨のようである。つまり、図書館は先達から引き継がれた研究成果や国内外の仲間が「たった今生産したばかりの」知的財産（おもり）であり、私たちの研究生活（船）が思いつきや不確かな情報（心地よくはあるが怖くもある風）で流されないように支えてくれるのである。私はアメリカ合衆国のアラバマ大学大学院で学校心理学を学び、また研究した。アラバマ大学の図書館でいかめしい装丁の心理学の古典で W. James, J. Watson, B.F. Skinner,

S. Freud などの考えに、わくわくしながら触れた。そして指導教官や兄弟子や同僚らが発表したばかりの論文が掲載されている雑誌を、明日は私の論文が載ることを祈りながら、手にしたものである。現在はコンピュータの普及で、自分の研究室でも文献検索ができるようになったが、図書館で古典に触れ、学術雑誌を見ることが、研究の支えであることには変わりはないと思う。本稿では、現在お世話になっている大塚図書館を、夜間大学院の立場から紹介する。



自動貸出装置



閲覧室



カウンター

大塚図書館

大塚図書館は、筑波大学東京校舎のG館の1階にある。春は窓に桜を楽しみ、夏は蝉の声にせかされながら、私たちは図書館で資料を探したり、研究したりしている。さて大塚図書館の主たる利用者は、東京校舎にある学校教育部、大学研究センター、理療科教員養成施設、そして夜間大学院として教育研究科カウンセリング専攻、経営・政策科学研究科経営システム科学専攻、企業法学専攻（以上は修士課程）、および経営・政策科学研究科企業科学専攻（博士課程）の教職員および学生・大学院生、そして附属学校の教職員である。大塚図書館は、夜間大学院生の便宜を図っており、時間外利用も含めると、朝9時から夜11時まで利用でき、自動貸出装置も設置されている。なお、大塚図書館の学期中の開館時間は月＝9:00～17:00、火～金＝13:00～21:10、土＝13:00～19:50と夜間大学院の授業時間に対応したのになっており、時間外利用の対象者は大塚地区の教職員および大学院生である。

私は、教育研究科カウンセリング専攻を担当している。大学院生には、教師、カウンセラー、看護婦、保健婦、ソーシャルワーカー、企業に勤める者などがいる。かれらは、平日は仕事帰りに急いで、午後6時20分からの授業に駆け込み、9時に授業が終わると今度は図書館に駆け込んで論文を探すのである。土曜日の授業は、午後1時45分から7時35分までなので、さらに多くの時間を図書館で過ごすことができる。

さて夜間大学院の社会人大学院生にとって、大塚図書館はどのような働きをしてきているのだろうか。

研究についての体験学習を支援する

大学院生の多くは、さまざまな職場で、「カウンセリング」（人々の成長や困りごとの解決の援助）に関する仕事をしている。つまり実践においては、経験者である。しかし、研究については経験が少ない者が多く、研究のために図書館を使うことは初めてという場合もある。授業で推薦された論文を探す、授業で発表したりレポートを書くために論文や図書を探すという作業を、大塚図書

館で体験学習していくのである。

レポートや論文作成を支援する

大学院生は、中央図書館や医学図書館から、報告書や論文のコピーを取り寄せてもらったり、レポートの締め切り間際には至急扱いで論文のコピーを送ってもらったりするのである。

古典に出会う機会を提供する

授業のレポート作成、発表の準備、論文作成について、急いで文献を探すだけが、図書館の役割ではない。大学院生は、多くの時間を図書館で過ごすなかで、目の前に迫る締切を忘れて、書棚をぼんやりとながめることがある。また図書館を散策することがある。そんなとき、フロイトやユングの書を見つけるのである。レポートの締切を守ることよりも、フロイトの書を読む方が大切に思えたりする。古典はかび臭いものであるが、かびには歴史を耐えてきた真実の香りがするから不思議である。新しい理論やモデルの基盤となっていること、そしてときには新理論よりもっと新しいことが、古典にはある。社会人大学院生には時間が限られており、古典を楽しむ余裕があまりないのが残念である。しかし、図書館で古典の顔を一度見て、古典の肌に少し触れるだけでも、研究を続ける力と知恵が与えられる。自分が生産するひとつの研究成果が、長年の歴史の流れのなかにあることを知ることは重要である。古典は会いたくなったらいつでも会える。だからこそ古典なのである。

つまり、大塚図書館は社会人大学院生にとって、学習の場であり、研究の場であり、研究者としての第一歩を記す場でもある。ここで、教育研究科カウンセリング専攻の修了生の声を紹介したい。

・A教師（女性）

大塚図書館は、夜間大学院の学生にとって必需品である。文献を検索したり、他の図書館にある文献のコピーをお願いしたりと、図書館を大いに利用しなくては研究が進まないし、卒業することができない。夜間大学院に入るまでは研究活動で図書館を利用するという経験がほとんど皆無だった私ですら、こんなに大塚図書館を便利に使えるようになるのだから、図書館の職員の方はさぞか

し新入生の対応に苦労されているだろう。コンピュータでの検索も年々改良を加え、初心者でも使いやすいように環境整備を工夫してくださっている感じが感じられる。最近では、インターネットで筑波大学電子図書館にアクセスして文献の検索をすることも覚え、一段と使い勝手が良くなった。

そんな中で、大塚図書館が特に便利だったのは、夜11時まで（土曜・日曜も！）利用できることだ。仕事帰りに急いで授業に駆け込み、授業が終わると今度は図書館に駆け込んで論文を探す。この作業が可能なのも、大塚図書館が夜遅くまで開館しているからである。もし、他の図書館のように5時で閉館してしまったら、仕事を休んで文献検索をしなくてはいけなくなる。アフター5に研究を進めることが実質的に無理だということになる。この点で大塚図書館は、夜間大学院同様、もう一度専門的な学習をしたいと願う社会人をしっかりとバックアップしてくれていると言ってもいいだろう。

・Bカウンセラー（男性）

大塚のカウンセリング専攻で過ごした2年間は、本当に忙しかった。昼間の仕事を気にしながらも、授業や修士論文の執筆と目まぐるしく過ぎ去った2年間であった。そんな中で、大塚の図書館は社会人大学院生の強い味方であった。中央図書館や医学図書館から、報告書や論文のコピーを取り寄せてもらったり、レポートの締め切り間際には至急扱いで論文のコピーを送ってもらったりした。図書館で働いておられる方は、多分、社会人大学院生の押しの強さ、少々のことではめげない図々しさに随分と戸惑いを感じられたと思う。そんな中、いろいろと相談に乗ってくれて大変感謝している。

最後に大塚図書館に希望することを書きたい。

資料、データベースの充実とスペースの拡大

大塚図書館におかれている雑誌、図書などの資料はまだとても少ない。またカウンセリング専攻や（全国で唯一の）理療科教員養成施設があるにもかかわらず、MEDLINE や医学中央雑誌などの

データベースが使えないのは不便である。

資料の充実を図るためには、スペースの拡大が緊急の課題だろう。本一冊棚に入れるのにも、図書館の方は苦労されているようである。図書館には古典と最新の研究成果の両方をおく必要があり、現在利用している研究科や部署の数を考えると、大塚図書館は狭すぎるように思える。

修了生の利用について

夜間大学院の修了生の中には、修了後も研究を続けようという気持ちを持ち続けるものも多い。願わくば、修了生にも在籍者に対するような大塚図書館のサービスを、受けさせてほしいのである。社会人にとって、専門図書の貸出し、学术论文のコピー取り寄せ等のサービスをお願いできる図書館は数少ない。社会人が研究活動を続けることをバックアップするという、図書館としての先駆性を大塚図書館に期待したいと思う。国立大学の中には、期限付きながら修了生に図書館使用の権利を与えている大学もある。ぜひ、修了生にも閲覧・検索以外の図書館利用の道も開いてほしい。

（いしくま・としのり 心理学系助教授
教育研究科 カウンセリング専攻
〔夜間大学院〕担当）



附属図書館ボランティア5周年記念式・講演会開催

みなさん、附属図書館ボランティアをご存知ですか？附属図書館では、現在48名の方がボランティアとして次のような活動をしています。

- ・中央図書館2階のボランティアカウンターでの簡単な図書館総合案内，外国人の図書館利用支援，身体障害者の利用補助
- ・視覚障害者のための対面朗読サービス
- ・書架の整頓・清掃等の利用環境整備
- ・体育・芸術図書館のポスター資料整理の補助

この他にも留学生のためのオリエンテーションの補助，フレッシュマンセミナーの補助，高校生やPTAの館内見学案内といった活動があります。



活動中のボランティア
(左：書架の整頓 / 右：館内見学案内)

〔平成11年度の活動から〕

中央図書館のメインカウンターを左手に，まっすぐ進むとボランティアカウンターがあります。このボランティアカウンターを利用した人は延べ3,150人，質問件数は3,251件で，その25%が学外者，21%が外国人でした。また，ボランティアカウンターでの質問は資料配置に関するものが最も多くなっています。探している資料が書架に見つからない時や，検索した資料の場所がわからない時など，一緒に書架まで行って探すのを手伝ってもらえることもあるので，図書館を使い慣れていない利用者にとってボランティアは特に頼りになる存在といえるでしょう。

対面朗読サービスは延べ324時間，高校生やPTAの館内見学案内は35件（案内した人数は合計1,854人）行われ，これらの活動が定着してきていることがうかがえます。

附属図書館では，平成7年6月に発足したボランティア活動が5周年を迎えたことを記念し，6月19日（月）に附属図書館ボランティア5周年記念式及び講演会を開催しました。

〔記念式〕

記念式では板橋秀一附属図書館長，阿部生雄ボランティア専門委員会委員長から活動5周年を迎えての記念の挨拶がありました。

板橋附属図書館長は他大学からもボランティアについての問い合わせが多いことに触れ，「ボランティアには利用者支援を通して図書館活動に貢献していただくと同時に，その活動を通して気づいたことを忌憚なく図書館に伝えていただいて，図書館とボランティアの双方にとってよい方向を目指したい。みなさんの活躍をお祈りするとともに後継の方にノウハウが伝わるような仕組みを作ってほしい。」と今後の活動への期待を述べられ，阿部委員長も「教員の立場からボランティアの自発性・個性・技術を図書館の業務にうまくつなげるような働きかけをしたい。また，大学図書館のボランティアは大変先進的な試みであり，新たな歴史形成にあたっているのだという意識を持って活動してほしい。」と述べられました。

続いてボランティア代表の柳沢由紀子氏から，「活動開始の頃から比べると，ボランティアカウンターも大変立派になってすばらしい活動に結びついてきたのではないかと思います。ボランティアが図書館を利用される方にとって心強い存在でありたいと励みつづけると同時に，生涯学習の精神に沿って高め合うような活動をしていきたい。大学図書館ボランティアの先駆けとして，これからも充実・発展していきたい。」と，活動への強い意欲

を感じさせる挨拶がありました。

〔講演会〕

記念式に引き続き、本学教育学系教授の山内芳文先生を講師にお招きしての講演会「子ども・本・学校 - 絵でみるヨーロッパ教育文化史」が開催され、附属図書館ボランティア、図書館部職員ら約40名が出席しました。

山内教授は古代・中世・近世から近代までの書物の変遷と教育の変遷について、書物の形態・材質、教育が行われる場所、教育現場で使われた書物等を題材として説明されました。

また、附属図書館の貴重書庫に保存されている図書や OHP の画像、山内教授が栽培されたパピルスといった「目で見る資料」を数多く交えながらのお話で、参加者が初めて見る本物のパピルスに驚いたり、貴重書の重厚さ、古書の色鮮やかさに感心する場面も多くありました。講演は約50分の予定で行われましたが、時間が足りなくなるほどの豊富な内容に参加者は熱心に耳を傾けていました。

講演終了後には質疑応答が行われ、参加者の関心の高さを示すような質問がありました。



講演をする山内教授（左上）と参加者（右下）

5周年という節目の記念式・講演会を終えて、附属図書館ボランティアからは「先生方のお話を伺って力を得た思いがする。」との声もあり、活動に対する熱意が一層高まっていることがうかがえました。

（図書館公開係）



ASK US としょかんミニガイド

新聞記事の探し方について

Q：中央図書館では、今日の新聞はエントランスホールにありますけど、昨日の新聞やもっと古いものはどこにあるんですか？

A：1階にありますよ。タイトル別にだいたい10日ごとにまとめてあります。日本の主要新聞は2ヶ月くらいで縮刷版が出ます。1階新聞コーナー奥の小さい部屋の電動書架にありますので、そちらを見てください。もっと古いものだとマイクロフィルムで所蔵しているものもあって、そうすると視聴覚メディア室にあります。スポーツ新聞などは体芸図書館に揃っていますから、まずはOPACで検索するのを忘れないでくださいね。

Q：実は、あるテーマについて記事を追いたいと思っていますんですが...

A：縮刷版には索引がついていますから、それで調べられますけど、ちょっと大変かもしれないですね。最近の記事についてだったら、主要な新聞はCD-ROMなどで記事の中の言葉から検索できますから、それを使ってみてはどうですか。
(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/haichizu/t-2fb-new.html>)

Q：それはどこで使えるんですか？

A：図書館で使えるものは、中央図書館2階のボランティアカウンターの横に並ぶ端末がCD-ROM優先のもので、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞の検索ができます。（毎日新聞は1999年分までになります。）新聞によりませんが、だいたい90年代以降のものですね。特に朝日新聞は今年からCD-ROMではなく“DNA”という記事検索サービスが使えるようになりました。

Q：“DNA”ってなんですか？

A：“Digital News Archives for Library”の略称です。地方版を含めた1984年からの朝日新聞と、AERAの記事が検索できます。新聞記事のほうは、面によっては当日の朝刊も検索対象になっています。



図1 DNAのトップページ画面

Q：簡単に使えるんですか？

A：簡単ですよ。記事の全文が検索対象になりますから、とりあえず思いついた言葉で検索できます。

Q：良さそうですね。

A：一つ気をつけてほしいのは、統一されたキーワードというものが無いので、いろいろな表現が考えられるという点です。たとえば、「首相」「総理大臣」「総理」では検索結果の数が違ってきます。「不登校」と「登校拒否」なんていうのも変わってきますね。でも実はこういうことはDNAに限らず何か検索するときにはいつも気をつけたほうがいいですよ。



図2 DNA 検索結果見出一覧画面

Q：新聞でよく使われる言い方に気をつけるということですね。ところで海外の新聞はどう調べられるのでしょうか。

A：海外の新聞を調べる場合、まず図書館で購入している新聞はほとんどが1年分しか保存していないので気をつけてください。その場合、入手したいものがあつたら、学外への複写申込をしたり、閲覧に行ったりすることになります。これは雑誌論文などと同じですね。検索する資料としては、1999年までのものになりますが、“New York Times”と“Times & Sunday Times”のCD-ROMがあります。それから、FirstSearchは使ったことがありますか？

Q：いいえ。どういうものですか、それは？

A：電子図書館のトップページに「学术论文情報データベース」というのがありますが、そこからたどれます。これには50以上もの様々なデータベースが入っていて、新聞記事に関するものもいくつかあります。それぞれのデータベースの説明や使い方に目を通して、活用してください。それに海外に限らず日本のもそうですが、このごろはどの新聞もインターネット上でサイトを開いていますね。簡単な検索ができるものもありますよ。

(FirstSearchについて: Ask Us としょかんミニガイド「つくばね」25(4) p9-11, 2000に掲載
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/tsukubane/2504/ask2504.html>)

Q：便利ですねえ。

A：そうですね。でも冊子体の資料も有効ですよ。特に古いものと電子媒体ではまだ少ないですね。「ニュース事典」とか「新聞集成」といったタイトルで、明治・大正・昭和の主だった記事をまとめたものがあります。

Q：なるほど。

A：電子図書館の「レファレンスデスク」のページを開くと、「あることがら・事実について調べる」というページがあります。そちらに新聞記事の検索資料をまとめてありますので、参考にしてください。

(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/newspaper.html>)

Q：わかりました。やってみます。

A：何かわからないことが出てきたら、またどうぞ質問してください。

平成12年度筑波大学附属図書館開館日カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 無印 中央・体芸・医学 9:00~22:00 大塚 13:00~21:10
- 中央・体芸・医学 9:00~22:00 大塚 9:00~17:00
- 中央・体芸・大塚 9:00~17:00 医学 9:00~20:00
- 中央・体芸・医学 13:00~18:00 大塚 13:00~19:50
- 中央・体芸・医学 13:00~18:00 大塚 休館
- 中央・医学 13:00~18:00 体芸・大塚 休館
- 4館とも休館
- 筑波地区休館(10月21, 22日は停電のため) 大塚 9:00~17:00
臨時休館等の場合は掲示でお知らせします。

私の一冊

宮永 豊

『目で見えるスポーツ外傷と障害』(全5巻)

宮永 豊監修(医学映像教育センター)

[体芸 視聴覚 789 .19-Me14-1/5]



日頃、スポーツ外傷と障害に関する講義や講演をしていて、書籍・雑誌などのスタティックなものだけではスポーツ関係者はもとより学生・大学院生の理解が十分には得られていないことを実感していたので、今回『目で見えるスポーツ外傷と障害』を刊行することにした。タイトルからもわかるように、知識や情報の伝達手段をビジュアルで、ダイナミックなイメージが描けるビデオにしたのが大きな特徴である。

内容的にはスポーツ外傷と障害の基礎から臨床

すぐに役立つ実践的な知識や情報が盛り込まれている。このような広範な内容を興味深く頭に入れてもらうために平易な解説，図表やダイナミックな映像，最新のコンピュータグラフィック技術を存分に取り入れるなどの工夫が施してある。スポーツ界，学会で活躍している本学と東大の教官の協力を得て，それぞれ専門的な立場から編集した。

このシリーズは5巻より構成されている。第1巻『運動器のしくみと動き』では，とかく難解な外傷や障害のバイオメカニクスと関節運動をダイナミックな映像で解りやすくした。第2巻『スポーツ外傷と応急処置』は外傷の解説・対処方法，第3巻『主なスポーツ障害』は代表的スポーツである野球，ランナー，サッカーに好発する成長期のスポーツ障害を詳述した。第4巻『アスレティックリハビリテーション』と，第5巻『テーピングとマッサージ』は概要を明らかにし具体的な方法，手技が手にとるように解るようになっている。

スポーツ外傷と障害のような医科学的テーマは大変ビデオにしにくいものであっただけに，本ビデオは画期的なものである。読者の理解を助け，スポーツ外傷と障害の全てを明らかにしている。好きな時に，好きな所を見るといった利用もできるので，大いに活用してもらいたい。

(みやなが・ゆたか 体育科学系教授)

立川孝一

「フランス革命 祭典の図像学」(中公新書933)

立川孝一著(中央公論社)[中央 235.06-Ta14]



図書館の歴史コーナーに立ち寄ったところ，古今の名著・大著の間に，この新書版の1冊が心細げにはさまっていた。仲間を増やしてやろうと一冊進呈したのがヤブヘビで，自著を語るの仕儀となった。

奥付を見れば1989年7月刊。フランス革命200周年の企画のひとつとして本書は世に出た。ぼくはその前年にも『フランス革命と祭り』(筑摩書房)を出版していたが，こちらの方はプロヴァンス大学に提出した学位論文の簡約版のようなもので，舞台は勝手の知った南仏の小都市，処女作ではあったが楽しい仕事であった。だが，視点をパリに移し，革命をその全体像において捉えようとした二作目(本書)は思うように筆が運ばず，「200周年に間に合わない」と出版社は気をもんだ。

学術論文であれば，データが揃った所で確実と思えることだけを書けばよい。だが新書のような一般向けの本では，歴史の全体像をはっきりと示すことが要求される。つまり，フランス革命をあの時点(1989年という現在)において，何故，どのように評価すべきなのかという問いに対して著者の立場を鮮明にすることが求められていたのである。だが，旗幟鮮明たらんと欲すれば支配的学説に異を唱え，恩師の不興を買うことだってある。

とにかく，フランス革命を教科書にあるような近代的な市民革命として描くつもりはなかった。議会制，人権，市場経済などはアングロ・サクソンのスローガンにすぎない。フランス革命の最大の特徴は近代化に対する抵抗 伝統を守ろうとする農民とサンキュロットの自発的抵抗にあった。そして彼らの反乱を可能にさせた平等の意識と社会的結束力こそ，現代人が見失ってしまった理想 フラテルニテ(友愛) の意味なのだ。今でも思っている。

(たちかわ・こういち 歴史・人類学系助教授)

本学教官寄贈著書紹介

平成12年5月～平成12年7月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。

(敬称略, 寄贈者五十音順, []内は配架場所と配架番号です。)

加納克己, 高橋秀人 (社会医学系)

・疫学概論. 朝倉書店, 2000

[医学, 体芸 498.6-Ka58]

亀田壽夫 (電子・情報工学系)

・Optimal load balancing in distributed computer systems/Hisao Kameda ...[et al.] Springer, c1997 (Telecommunication networks and computer systems) [中央 007.6-Ka33]

駒井洋 (社会科学系)

・日本の社会知の死と再生. ミネルヴァ書房, 2000 (Minerva 21世紀ライブラリー; 58) [中央 301-Ko57]

小俣幸嗣 (体育科学系)

・順天堂大学柔道部三十年史/真柄浩共編. 順天堂大学柔道研究室, 1983 [体芸 789.2-Ma29]

下山眞司 (名誉教授)

・論叢建築について. 筑波建築設計, 2000 [中央, 体芸 520.4-Sh55]

田瀬則雄 (地球科学系)

・Hydrological study data in Sri Lanka / N. Tase ...[et al.] University of Tsukuba, 1995 (Data book of "Hydrological cycle in humid tropical ecosystems"; pt. 2)

[中央 451.925-N32-2]

中谷陽二 (社会医学系)

・パトグラフィーへの招待/福島章共編. 金剛出版, 2000 [医学 493.71-F84]

西尾チヅル (社会工学系)

・エコロジカル・マーケティングの構図. 有斐閣, 1999 [大塚 675-N86]

宮永豊 (体育科学系)

・目で見えるスポーツ外傷と障害 全5巻. 医学映像教育センター, [2000] [VHS] (健康・保健シリーズ) [体芸 視聴覚 789.19-Me14-1/5]

山本泰彦 (機能工学系)

・図解コンクリート用語事典/長瀧重義共編著 山海堂, 2000 [中央 参考 511.7-N23]

若林幹夫 (社会科学系)

・都市の比較社会学. 岩波書店, 2000 (現代社会学選書) [中央 361.78-W17]

とぴらくす

[学内]

第229回附属図書館運営委員会 (6月開催)

[審議事項] 平成11年度版筑波大学年次報告書について (附属図書館), ほか

[報告事項] 各館委員会報告 各専門委員会報告 教育図書委員会 (第29回) について 平成12年度国立大学附属図書館事務部課長会議について

特別展について ボランティア記念式・講演会について, ほか

国立大学共通閲覧証の廃止と身分証による国立大学附属図書館等の利用について

第47回国立大学図書館協議会総会において, 国立大学共通閲覧証が廃止されました。これに伴い, これまで共通閲覧証での利用が可能であった図書館について, 教職員及び大学院生の方は, 身分証又は学生証の提示での利用が可能となりました。

*お問い合わせ先: 相互利用係 (内線2373)

メールアドレス tulips-ill@tulips.tsukuba.ac.jp

学位論文の電子図書館への登録申請受付を実施

7月25日(火)に大学会館において学位記授与式が行なわれました。この学位記授与式に出席された32名の博士課程の修了者に電子図書館への学位論文の登録をお願いし、14名の方から申請をしていただきました。

附属図書館では電子図書館へ学位論文を登録することの意義をご理解いただき、ひとりでも多くの方に登録していただくようお願いをしています。学位論文などの登録申請は、いつでも受け付けておりますのでご連絡ください。

* お問い合わせ先：電子情報係（内線2470）
メールアドレス voice@tulips.tsukuba.ac.jp



学位論文を登録する博士課程修了者

掲示板

双方向高画質ビデオ信号伝送システムの開設

平成12年3月、学術情報処理センターの「双方向高画質ビデオ信号伝送システム」のサテライトとして、中央図書館グループ視聴室にビデオ送受信装置が設置されました。このシステムはATM回線を使用してデジタルビデオ信号を双方向に伝送し、学内で遠隔講義や遠隔会議などを行うことができます。また、SCS (Space Collaboration System) への接続が可能で、サテライトから学外で行われている学会・講演会・セミナー等への参加が可能です。学内では他に学術情報処理センター、教育機器センターにサテライトが設置されています。

SCSを利用して全国に中継された平成12年度大学図書館職員長期研修(7月10日~28日、文部

省・図書館情報大学主催)の講義の一部が中央図書館サテライトに配信され、図書館部職員が多数受講しました。



大学図書館職員長期研修の講義を視聴する図書館部職員